

目次

法文化学会第10回研究大会・総会を終えて.....	1
法文化学会第11回研究大会について.....	2
叢書『法文化 歴史・比較・情報』.....	2
叢書第6～8巻の編集について.....	2
叢書第9巻の発刊について.....	3
叢書第10巻の企画募集について.....	3
叢書第9巻『名誉の原理』原稿募集のご案内.....	3
事務局からのお知らせ.....	4
2006年度会計報告.....	4
年会費納入のお願い.....	4
年会費納入に関するご注意.....	4
入会の申込について.....	4

法文化学会第10回研究大会・総会を終えて

法文化学会事務局 屋敷二郎（一橋大学）

法文化学会第10回研究大会は、関東学院大学が主催校となり、2007年11月24日(土)、関東学院大学関内メディアセンターにて開催されました。「生と死の法文化」を研究大会の共通テーマに掲げ、午前・午後あわせて4名の方にご報告をいただきました。さらに午後の部では、自由報告として2名の方にご報告いただきました。

共通テーマとしては、午前の部では、藤本幸二会員(司会・山内進会員)に「ドイツ啓蒙主義的刑事立法における民事死制度の位置づけ」、古川原明子・明治学院大学助手(司会・鳥澤円会員)「終末期における治療中止と刑法」、総会・

自由報告をはさんだ午後の部では、奥田敦会員(司会・真田芳憲会員)「シャリーア・イスラミーヤの包括性について」、桜井徹・神戸大学教授(司会・高橋文彦会員)「リベラル優生主義はダーウィン主義的生命観を要請するのか？」というタイトルのもと、ご報告をいただきました。いずれも、質疑応答では活発な意見交換が行なわれ、生と死をめぐる法文化に向けられた関心の高さを示すものとなりました。

総会では、事務局から昨年度の学会活動報告ならびに会計報告などがなされ(後掲)、同時に叢書『法文化 - 歴史・比較・情報』第5巻の刊

行報告、第6巻・第7巻の編集状況の件(後掲)、さらに新入会員の紹介(大藤慎二、大中真、金永完、朴銀珠の各氏)など、いずれも全会一致で承認されました。

自由報告では、「オントロジー法学」(司会・森光会員)を掲げて、出雲孝会員「近世自然法論者たちの莫大損害論」、津野義堂会員「プーブリ

キアーナの訴えのオントロジー」のタイトルのもと、ご報告をいただきました。いずれも、共通テーマに劣らぬ活発な意見交換がなされました。

研究大会の終了後、会場近くのフレンチレストラン「ぼんぷいむ」にて開かれました懇親会では、和やかな雰囲気の中で引き続き熱心な意見交換が行われ、充実した幕引きとなりました。

法文化学会第11回研究大会について

第11回研究大会を以下の要領で開催いたします。報告を希望される方は、8月末日までに、学会事務局にご連絡ください。報告者には慣例により叢書に執筆いただくことになっておりますので、テーマにつきましては、叢書第9巻編集についての下記の趣旨説明をごらんください。また、自由報告も予定しておりますので、テーマ以外の題目で報告を希望される方も歓迎いたします。

なお、報告希望者多数の場合は、学会事務局と大会開催校とで相談のうえ、報告者を決めさせていただきますので、予めご承知おきください。

1. 日程: 2008年11月29日(土)午前10時より
2. 会場: 桐蔭横浜大学 メモリアルアカデミウムB2F ポロニアホール
〒225-8502 横浜市青葉区鉄町1614
3. テーマ: 名誉の法文化

事務局からのお願い ご報告をご希望される方は、法文化学会事務局まで、氏名・所属・連絡先・報告の題目(仮題でかまいません。またテーマ報告・自由報告の別もお知らせ下さい)をご明記の上、上記日付までに、以下のいずれかの要領でお送り下さい。なお、研究大会に関するお問い合わせも以下にてお受けいたしております。

- ・郵便: 〒186-8601
東京都国立市中2-1 一橋大学大学院法学研究科 法文化学会
- ・FAX: 042-580-8280 一橋大学大学院法学研究科 法文化学会
- ・E-mail: admin@legalculture.org

* ご報告いただく方には、9月初旬頃に会員連絡用のご報告要旨のご提出をお願い申し上げます。これにつきましては、後日、事務局よりご連絡させて戴きます。

叢書『法文化 歴史・比較・情報』

叢書第6～8巻の編集について
現在、叢書第6巻『ネゴシエイション 交渉の

法文化』(編者:林康史会員)、叢書第7巻『法の担い手たち』(編者:佐々木有司会員)および叢

書第8巻『生と死の法文化』(編者:真田芳憲会
員)の編集が鋭意進められております。引き続き
ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

叢書第9巻の発刊について

叢書刊行委員会では、叢書第9巻のテーマを
「名誉の原理」とすることに決定致しました。執筆
を希望される会員は、以下の趣旨説明をお読み
の上、下記の申込締切日までに学会事務局に

題目(仮題で結構です)をご提示の上、お申し込
みください。なお、採否は編者とともに編集委員
会が行うことになっておりますので、その点はお
含みおきください。

叢書第10巻の企画募集について

叢書第10巻のテーマを募集しますので、ぜひ
学会事務局までご意見をお寄せください

叢書第9巻『名誉の原理』原稿募集のご案内

法文化学会叢書第9巻編集担当 王雲海(一橋大学)

10数年前から、米国の政治学者であるサミュエル・ハンチントンの『文明の衝突』(日本語版:鈴木主
税訳)が、世界中でベストセラーとなった。「文明の衝突」という用語自体も最も流行した言葉の一つにな
った。これに対して、近年になって、「文明の衝突」への反省か、それを避けるための努力かはともかく、
「文明の共存」を掲げる書物も登場し、「文明の共存」という言葉も徐々に広まってきた。

これからの世界が一体「文明の衝突」になるのか、それとも「文明の共存」なのかは、いまのところ定か
でない。しかし、「文明」が世界・人類にとって大事であることだけは確かであろう。では、これほど大事な
「文明」とは一体何であろうか。「文明」の定義・中味については、いろいろな分野・視点から異なる見解
が多数存在するが、最も重要なのは、やはりそれぞれの人・地域・民族・社会の有している固有の精神
ではないか。そして、その精神の中核の一つが「名誉」と「不名誉」に対する感覚や認識ではないかと思
われる。こういう意味からすれば、「文明の衝突」または「文明の共存」は、「名誉の衝突」または「名誉の
共存」とも言いうるのである。

以上のような問題意識をもって、第9巻は「名誉の原理」をタイトルに掲げ、以下のような構想で編集し
ようと思う。まず、「歴史的な縦的視点」から、「名誉」の歴史・現状・将来を法文化的に見ていく。次に、
「地域的な横的視点」から、「名誉」の社会間・国家間での共通性と相違性を法文化的に探っていく。最
後に、「法文化」という独自の視点から「名誉」の法的原理だけでなく、その裏に潜在している文化的原
理をも明らかにして、世界がよりよく共存できるような学問的示唆を提示する。これらの目標を達成する
ため、多くの会員のご投稿・ご協力を心より賜りたい次第である。

1. 原稿申し込み締切日: 2008年8月31日
2. 原稿提出締切日: 2009年9月1日(締切日厳守、完成原稿のこと)
3. 刊行予定: 2010年7月
4. 原稿枚数: 200字詰め原稿用紙で100枚以内

事務局からのお知らせ

2006年度会計報告

2006年度の会計(2006年4月1日～2007年3月31日)につきましては、白川和雄・萩原金美の両会員に監査をいただき、上記総会にて承認されました。

2006年度 収支

総収入	1,028,044
総支出	89,537
次年度繰越金	938,507

2006年度 収入内訳

年会費	357,500
前年度からの繰越金	670,544
計	1,028,044

2006年度 支出内訳

郵送費	7,920
文具代	1,260
人件費	4,000
第9回研究大会補助	76,357
計	564,514

年会費納入のお願い

学会員各位におかれましては、2008年度(2008年4月1日～2009年3月31日)の会費(5000円)の納入をお願いいたします。

ご承知のように、本学会の年会費5000円には、機関誌である叢書『法文化 - 歴史・比較・情報』

の購読料3000円が含まれておりますので、何卒、ご納入の程ご協力お願い申し上げます。同封の郵便振替用紙にてご納入いただけましたら幸いです。ご不明の点がありましたら事務局までご照会下さい。

郵便振替口座番号:00130-4-659540

口座名義:法文化学会

年会費納入に関するご注意

学会会計処理上、滞納額のある学会員が会費を納入された場合、まず滞納分に充当されます。例えば、2005～7年度分を滞納中の学会員が仮に2008年度分のつもりで5000円を納入しても、学会会計上は2005年度分として受理され、2006～08年度分は未納として扱われます。念のため、ご注意を申し上げます。

入会の申込について

下記の学会ホームページから、法文化学会入会申込書がダウンロードできるようになりました。入会を希望される方にお知らせいただければ幸いです。入会に際しては、大学院修士課程以上の学歴・研究歴(在学中を含む)と、会員による推薦が必要です。必要事項を書き込まれましたら、事務局まで郵送下さい。なお、入会には理事会の承認が必要です。

法文化学会ホームページのご案内

法文化学会事務局ではホームページ www.legalculture.org を運営いたしております。会員の皆様からご意見・ご要望などをお寄せいただけましたら幸いです。会員のみならず、本学会の活動に関心のある非会員の方々への情報提供の場として、このホームページをご活用ください。